**二の丸御殿の図面**

二の丸御殿は、床面積2,100平方メートル余り、約50の部屋からなる行政施設であった。西に大天守、南東に太鼓門、北に二の丸裏御門橋が架かっていた。

二の丸御殿は、1727年に本丸の御殿が焼失するまで、松本藩の二番目の行政機関として機能していた。明治維新後、二の丸御殿は一時県庁となったが、1876年に火災で焼失した。その2年後には裁判所が置かれ、1978年に城内の別の場所に移設されるまでこの地に存在した。

この移転を機に、二の丸御殿の跡地が発掘されることになった。1979年から1984年にかけて、考古学者による発掘調査が行われ、二の丸御殿の基礎が復元された。また、御殿で行われていた作業について貴重な情報を提供するさまざまな遺物も発見された。ここでは、それらの遺物の一部を展示している。